



FUTABA JOURNAL

静岡市葵区追手町10-71
 静岡双葉学園
 新聞部
 電話(054)271-3254
 印刷所 ササキデザイン社

私たちが得たもの

新型コロナウイルスの感染拡大により、本校では九月一日から二十四日間オンライン授業となった。昨年三月に続き、二度目となったおうち時間やオンライン授業。新聞部は四学年六十九人にアンケートを行った。

今回のオンライン授業期間と現在の心境の違いについて問うと、「登校し、友達に会えて嬉しい。」「オンライン授業を経て、以前より授業に緊張感を持てるようになった。」「といった声が多くあった。

Q2 オンライン授業期間、おうち期間中、どんなことをしてコロナ禍を乗り切りましたか

< 雙葉生で多かった過ごし方 >

1 好きな芸能人やキャラクターに関することをする	21人	30.4%
2 音楽を聴く	10人	14.5%
3 寝る	9人	13%

また、人と会えないから人と関わらなければいけない、コミュニケーションの大切さを再認識できたという意見もあつた。

次にオンライン授業期間、おうち期間の過ごし方について問うと、上記のものが多くあつた。中には、運動やお菓子作りなど時間を作るものもあつた。また電話を使い、離れた人と関わりたいという声もあつた。



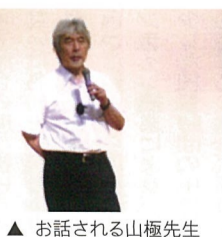
▲ オンライン授業期間、誰もいない教室

予想もなかった今回のオンライン授業。いよいよ、新型コロナウイルスの収束が見えてきた。だが、私達はコロナ禍やオンライン授業から得たことを忘れてはならない。

ゴリラから学ぶ 人間社会

七月十四日(水)、「コミュニケーションの進化とコロナ後の社会」という演題で第二十六代京都大学総長・前日本学術会議議長である山極壽一先生に講演していただいた。山極先生はアフリカ各地で野生のゴリラの研究を続けられており、日本の霊長類研究を牽引されてきた。

ゴリラは争いを嫌い、常に集団で行動している。しかし家族的な小集団しか作ることができない。見返りを求める共同体と求めない共同体との対立があるからだという。人間がこの二つを両立することができると、高い共感力で仲間の事情や気持ちを理解することができる。今回の講演会ではコロナ禍で人と人との繋がりが薄れている社会の中で、と



▲ お話される山極先生

ても考えさせられる内容であつた。

高校生 勉強できる 場所づくり

八月十八日から二十七日までの八日間、高校生を対象にオンライン自習室が開設された。自宅でも緊張感を持って勉強に取り組むことや、学習習慣の立て直しが目的で行われた。オンライン自習室では、入室中カメラをオンにし、自分が勉強している様子を見せることがルールである。

このルールにより、勉強を頑張っている仲間への姿にやる気が出るという期待され、実施された。

ハイブリット 授業導入

九月十四日から高3生に対して、オンラインと対面のハイブリット授業が導入された。生徒の不安を解消し、学習の応援をしたいとの考えから実施された。各教室に大型モニターを設置し、どちらの形式の生徒にも配慮した授業を行ったという。オンラインの生徒と対面の生徒との意見交流の場を設けることを大切にしたい。いかなる状況においても、生徒の学びを優先する先生方の思いが込められた。



▲ ハイブリット授業を受ける高3生

楽しく体動かして! ダンス動画第二弾

「雙葉生に楽しく体を動かして欲しい」という体育科の先生方の思いにより、二作目のダンス動画が公開された。

一作目の違いは生徒一人一人の個性を大切にしたいところ。リラックスして自由に踊って欲しいとダンス動画に出演した平野凛太さんは語った。また、録画から編集まで三日間

常に 前進

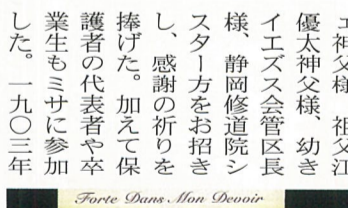
「Cerberus」をスロガンに掲げ、令和三年度後期生徒会の活動が始まった。新聞部は、会長の西田里光さんと副会長の平野凛太さんにインタビューをした。



▲ 先生方の個性を生かした動画

感謝を込めて

七月二十九日(火)に、幼きイエズス会静岡修道院が八月に閉鎖することに伴い、感謝ミサが行われた。梅村昌弘司教様、和野信彦神父様、ミシェル・ゴーチエ神父様、祖父江優太神父様、幼きイエズス会管区長様、静岡修道院シスターの方をお招きし、感謝の祈りを捧げた。加えて保護者の代表者や卒業生もミサに参加した。一九〇三年



▲ ミサを行う神父様

にマザーマチルドの命を受けたシスターの方により本校が創設されて以来、ともに歩み、深く関わってくださった。シスターの方の教えは今までも、そしてこれからも本校の生徒や教職員心の支えとなることに感謝したい。

オンライン 沖縄体験 学習

中学三年生は、十一月一日、二日にオンライン沖縄体験学習を実施した。コロナの感染拡大により沖縄には行けなく沖縄が抱えている基地の問題や

戦争について考える機会を得る為実施された。一日目は、首里城のオンラインツアーや、美ら海水族館の館内案内。二日目には、沖縄の過去を学ぶゆめり平和記念資料館の講話や普天間飛行場の近くに佐喜真美術館の館長さんから基地についてお話を伺った。今回の体験学習を通じて、沖縄の伝統や文化、歴史を学ぶことが出来た。また、これから私たちが切り開いていく世界、どのように生きていくかを考える機会となった。

石の声

二〇一九年十二月に新型コロナウイルスの感染が拡大してから二年が経った。ワクチン接種が進むが、元の生活に戻れたとは言いえない。オンライン授業期間、それぞれの過ごし方があつたろう。そんな中、ある言葉に出会った。▼「人って『シクシク』って泣きますよ。『ハハハ』って笑いますよ。四×九三六、八×八二四で答えを足すと百になります。人生を百とするって悲しいことは三六、嬉しいことは六四、倍近くある!』 なのに号泣(五×九四五)しても半分以上。人生泣き笑いで百!」これは新潟県出身の作家、ひすいこたろうさんの言葉である。私達人間にとってウィルスと戦うのが最も苦しいときかもしれない。今年の県政世論調査でも新型コロナウイルスにより、不幸になったと五二・二%の人が回答していた。しかし、この不幸や悲しみは幸せや喜びを知っているからこそのものでないだろうか。ウィルスにより苦しんだ、この二年。悲しいことは幸せなことよりも長く感じる。ことが多いが、視点を變えたと自分との向き合い方が変わるのではないかと悲しみに立ち向かう勇気を持ち、日々前向きに過ごしたい。

- | | |
|--------|----|
| 一面担当 | さら |
| 二・三面担当 | 真奈 |
| 四面担当 | 穂香 |

雙葉祭 2021

雙葉祭 2021 が「VOYAGE」(航海)をテーマに十月二十三日(土)二十四日(日)に亘って開催された。

コロナ禍で約一ヶ月も延期を余儀なくされ、来場者も生徒の保護者と小学生、その保護者に限定された。また、昨年と同様に感染防止対策を徹底しての実施となったが、生徒一人一人が充足感に満ちた表情で活躍し、日頃の部活動での成果を来場者に伝える発表を行っていた。

最終日の展示発表終了後、グラウンドにてフィナーレが行われた。まず部活動ごと、円になり、伝統のフォークダンスを踊った。その後、吹奏楽部が今年の雙葉祭のテ

実行委員長にインタビュー

雙葉祭実行委員長を務めた高2北の三浦理華さんにインタビューをした。
Q 実行委員長を務めたかった理由は。
A 中学三年生から実行委員として活動していく中で、自分を中心となって雙葉祭を作り上げたいと考えたから。
Q 雙葉祭を成功させる為に心掛けたことは。
A コロナウイルスの感染対策など制限された状況であっても、生徒も来場者も楽しめるようにする。



委員長(左) 三浦理華さん 副委員長(右) 飯島嘉恵さん

マ曲であるAAAの「Wake up」など計四曲を演奏した。雙葉祭実行委員長の三浦理華さんの言葉では、関わった全ての人への感謝や大波を乗り越えて雙葉祭という航海を成功させたことへの達成感が語られた。最後に各部活動に用意された宝箱が開けられ、中の風船が大空へと舞い上がった。宝箱は部長の好きな色や部活動に合った色を事前に確認して製作されたものであった。

生徒それぞれの人生という航海はまだまだこれから。人生を充実したものにすることで、雙葉祭で仲間と共に協力し合った経験は大きな糧になるだろう。

Q 雙葉祭を終えての今の気持ち。
A 何事もなく、無事に終えることができて嬉しく、安堵している。
Q 来場者や生徒にメッセージ。
A 雙葉祭に協力してくれた生徒の皆さん、来場して下さった方々、ありがとうございました。



△ライナーレ後、写真撮影する生徒達

装飾



△特に苦労したという船の装飾

今年度の雙葉祭で、装飾班の班長を務めた柴田れいなさんにインタビューを行った。

Q 今年のテーマ「VOYAGE」にどのような装飾を関連づけたか。
A 「VOYAGE」は航海という意味なので、海に関連した装飾を作りました。

吹奏楽

吹奏楽部は、「フェス」をテーマとして、アップテンポなものや今年流行したものまで様々な曲で観客を盛り上げた。高2生、一人一人の



△ VOYAGEの文字

あつたが、オンライン部活動など出来ることを重ねることで、雙葉祭での演奏を成功させた。

美術

美術部では「昭和レトロ」をテーマとし、昭和感溢れるお店などを並べた「美術部商店街」を表現した。

商店街には、駄菓子屋やタイル張りの銭湯など計四個の小屋がある。例年よりも大きさを細かく設定したため、苦労したようだ。また、新たな試みとして、午前と午後で商店街の雰囲気を変えたという。あなたは気づくことができただろうか。



△美術部商店街に並ぶ駄菓子屋

ソフトテニス

ソフトテニス部は、障害者支援施設である「かなの家」と「さつき学園」の入所者の方々が作成した香り付きの無添加せっけんや、ハーバリウムなどを販売していた。手作りで作ったせっけんは、一つ一つが違っており、来場者は商品を手に取りながら、買物を楽しんでいた。売上金は、各施設の方々に全額寄付された。



△笑顔で商品販売をする部員

バスケットボール

バスケットボール部は、静岡学園を招いての招待試合を行った。

試合前には、両チームの部員が熱心に練習する姿が見られ、それぞれ意気込んでいた。結果は、五十九対三十四で静岡雙葉の勝利であった。各チームに得点が入る度、大きな声援が上がった。試合は終盤に近づくにつれ観客も増え、



△熱心に練習するバスケット部の生徒

文芸

文芸部は、「宇宙」をテーマに展示を行った。大型の装飾やライトアップなどにより、神秘的な雰囲気の間となった。星座盤や本をモチーフとした大型の装飾は、多くの部員が協力して作り上げた。部員の書いたオリジナル小説と挿絵の合同作品や黒板アートな

ど、様々な工夫で「宇宙」が表現されていた。



△宇宙をモチーフとした展示の数々

クッキング

クッキング部は「Secret Garden」をテーマに展示を行った。マカロンやクッキーなどのお菓子、写真を撮りたくなる様な華やかな装飾が来場者を秘密の花園の世界へいざなった。小学生はミニケーキをこのに見立て、デコレーションし、会場を装飾した。



△秘密の庭園を訪ねて

書道

書道部は乃木坂46の「シンクロニシティ」、Official髭男dismの「宿命」の曲と歌詞を基に書道パフォーマンスを披露した。

迫力あるパフォーマンスは観客を圧倒させ、元気付けした。

陸上部は、体力測定や部活動の様子、ジャージやシューズなどの展示を行った。教室の後ろには、東京オリンピックの結果

性があるかを調べることが出来る、アルコールパッチテストの体験も行われていた。

新聞

新聞部では、雙葉祭期間中に全部活動の取材をし、速報の作成を行った。

部員は、「生徒の頑張りが伝わるように、一生懸命駆け回りたい。」と意気込んでいた。来場者や先生方・生徒が立ち止まる姿が多く見られた。



△速報作成中の部員

写真

写真部では、「心霊をテーマに部員がこだわって撮った心霊写真が展示されていた。暗い教室を入口でもらう懐中電灯を頼りに歩く。心霊写真は普段の写真とは撮り方が異なり、部員はどうすればより怖くなるのかと試行錯誤したという。



△教室内に作られた墓

語学

「テーマパーク」をテーマとした語学部では、パリのデイズニールランドと韓国のロッテワールドのアトラクションやゲームについての展示がされていた。苦労したという「Voyage」をイメージしたバルーンアートのフォ



△「テーマパーク」をテーマとした展示

コーラス

コーラス部は「ウエストサイドストーリー」を上演した。

多様性が求められる現代社会と重なる部分が多く、華やかで勢いあるダンスや演技が調和していた。

が蔓延する一九五〇年代半ばのニューヨーク。不満を抱えた若者達の勢力抗争を軸に「愛」と「死」が描かれた作品であった。躍動感あるダンスと客席、二階ギャラリーなど講堂全体を使った演出に観客も世界観に引き込まれていた。



▲ 感動で幕を閉じた

創作ダンス

創作ダンス部は、「TIME TRAVEL」をテーマに講堂発表を行った。約三十分間の間発表の中で、昭和から令和のヒット曲が全十五曲踊られた。総勢五十四名の部員によるダンスは迫力があり、様々な曲に合わせられた華やかな衣装と息の合ったダンスで観客を魅了していた。



▲ 迫力のあるダンス

英語劇

英語劇部では、「白雪姫」を上映した。今年度は部員が少なく、有志を募り、さらに一人何役もこなす難しいものだった。さらにコロナ禍により、例年より練習時間を確保できず、苦労したという。劇は校内の様々な場所で撮影したものを編集した。演劇だけでなく、この編集にも多くの時間を費やし、工夫を凝らした。



▲ 演技に見入る生徒

校舎を舞台に、中世の白雪姫の世界を巧みに表現した、見応えのある映像であった。

演劇

ソロや、中一生のダンス、演奏時にしゃぼん玉の演出があったりと見どころが満載であった。オンライン期間中に、思うように練習が出来ず苦労したことも



▲ 様々な曲を奏でる吹奏

聖歌隊

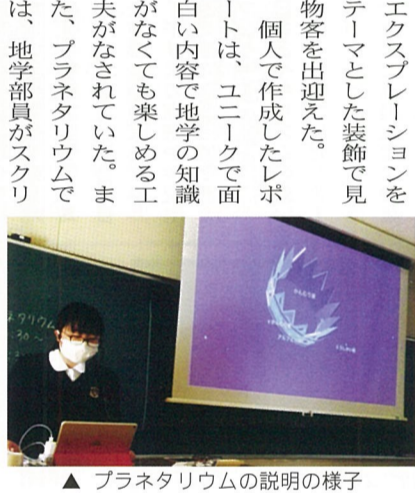
演劇部では、「こはんの時間2い」を上演した。チャイムの音とともに、待ちに待った昼休みが始まる。高校2年生の男女七人が、お弁当を食べながら、話をはずませていく。やがて話題はそれぞれの将来の話に及んでいく。各々が思い描く未来に向けて「流れてゆく、流されてゆく」というセリフが印象的だった。クスッと笑ってしまうシーンも多く、役柄に等身大の私達の喜びや悩み、迷いが表現されており、共感を呼ぶ演技だった。



▲ 将来への不安を打ち明ける

地学

地学部は、大航海時代をイメージしたデイズニエーションのフォートレスエクスプレッションをテーマとした装飾で見物客を出迎えた。



▲ プラネタリウムの説明の様子

放送

放送部では、音楽番組や部員の「押し」についての展示がされた。夏休みの間に展示の準備を行い、当日は展示板を美術館のような配置にした。音楽に関する展示にちなんで、長く音楽番組の司会を続けているタモリさんの等身大パネルが入り口で来場者を迎えた。パネルは制作に三日間を費やすなど、今年さらさらには装飾にも力を入れ、音楽の世界を視覚的にも表現しようとしていた。毎日のさわやかな朝を作り上げる放送部の新たな一面を見ることができた。



▲ フォトスポットのタモリさん

山岳

山岳部では、グランピングをイメージし、まるで大自然の中にあるような気分が味わえる外展示を行った。不思議な形のテントの中に部員による登山についてのレポートが置かれており、登山服の山岳部員が説明してくれていた。また、教室では過去の登山の写真を掲示したり、作成した動画をス



▲ グランピングをイメージした装飾

競技かるた

競技かるた部では袴を身に付けて行う個人戦と三人で戦う団体戦を行った。試合では競技かるたの知識が無くても楽しむことができるよう丁寧にルール説明を行っていた。教室内の装飾は「恋」をテーマとし、合わせて恋みくじも実施した。初の試みだという恋みくじに



▲ 「恋」をテーマとした教室での団体戦

日本文化研究

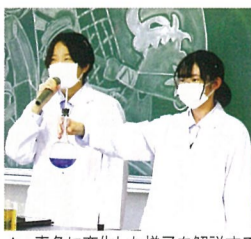
日本文化研究部では「和菓子」をテーマに展示発表を行った。今年から2021年で作り、より読みやすくなったレポートを、袴を着た部員らが来場者に丁寧に説明していた。また、鞠や屋台、なまこ壁などの装飾も風情ある雰囲気であった。お土産は、一つ一つ



▲ 来場者へ説明する部員

化学

化学部では、サイエンスショーやスライム・プラ板の作成体験を行った。サイエンスショーでは、酸化・還元反応や中和反応などの化学反応を劇を交えながら、分かりやすく紹介していた。スライム・プラ板の作成体験は小学生が楽しそうに体験している様子が多く見られた。



▲ 青色に変化した様子を解説する

茶道

茶道部は、小学生を対象としたお点前体験、和菓子や茶道についての展示を行った。談話ホールには紙粘土で作られた季節の和菓子の模型・茶道に使われる道具が展示された。また、茶花や千利休についても模造紙で紹介されており、茶道の世界に触れることができた。



▲ 体験を楽しむ小学生

家庭

家庭部の今年のテーマは「DRESS SHOW」であった。高一生四人と中三生六人がそれぞれ製作したというドレス計七体が並び、魔女のパーティーを表現していた。黒や紺を基調とした異なる形の七体のドレスには、スパンコールやラインストーンが付けれられ、輝きを見せていた。また、動



▲ 黒や紺を基調とした輝くドレス



▲ ジャージやシューズの展

